



第四次北海道子どもの読書活動推進計画

北海道では、平成15年度に「北海道子どもの読書活動推進計画」を策定、5年ごとに改訂を行い、この3月に「北海道子どもの読書活動推進計画<第四次計画>」を策定しました。「北海道の全ての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において、自主的に読書活動を行うことができるよう、家庭・地域・学校等の連携を進め、積極的にその環境整備を図る」という基本理念のもと、各市町村や地域とともに、子どもの読書活動の充実や読書環境の整備に取り組んでまいります。なお、本計画については、道教委HPに掲載しております。

子ども読書のHP <http://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ssgg/move/dokusyo/dokusayoinde.htm>

基本目標1：家庭・地域・学校等を通じた社会全体での子どもの読書活動の推進

家庭

- 「家読」の推進・読書に親しむ機会や雰囲気創出

地域

- 読み聞かせ、ビブリオバトル等の実施など

学校等

- 学校図書館を活用した学習など

基本目標2：子どもの読書活動を推進するための読書環境の整備

地域

- 絵本コーナー等子どもの利用スペース確保など

学校図書館等

- 学級文庫など校内読書環境の工夫など

各地の子ども読書応援団の取組紹介

多くの子どもたちが本を好きになるように

読み聞かせボランティア「おはなしころりん」(新十津川町)

本会は、平成2年に発足し、新十津川町図書館において、男女10名のメンバーが幼児及び小学生を対象に絵本の読み聞かせや紙芝居のほか、図書館行事への協力などの活動を行っています。

毎月第1・第3土曜日に実施している絵本の読み聞かせや紙芝居などをとおして、子どもたちに本の楽しさや本に親しむことの大切さを伝えています。

例年12月には、活動の集大成として人形劇公演を実施しています。これに向けた準備は10月から始まり、メンバーは夜間に集まり熱い稽古に励みます。本年度は、物語「かえるをのんだととさん」を原作としたオリジナル脚本の「ごっくんごんべい」を披露しました。メンバーが手作りする「ごんべい」たちの温かみのある動きに、子どもたちは引き込まれていきます。カーテンコールでの大きな拍手や歓声に、メンバーは活動していることの充実感を味わっています。

今後も、多くの子どもたちが本の楽しさを体感し、本がもっと好きになるよう、取組を工夫・改善しながら実践を継続していきたいと考えています。



紙芝居の様子



人形劇公演

読書が身近な村となるために

真狩村子どもたちの読書活動推進委員会（真狩村）

真狩村では読書推進計画を策定した平成17年に学校関係者、図書室利用者等の16名が教育委員会から委嘱を受け委員会が結成されました。平成20年から行政任せにするのではなく、委員が主体的に企画運営に携わるようになり、地域の読書活動の普及に努めています。

通年の活動としては、ブックトークの開催や村内の読書サークルと連携した読み聞かせを公民館・子育て支援センター・小学校で実施するとともに、村内の小・中学校と公民館の図書室の整備や新刊紹介の掲示物作成などを自らの手で行っております。

また、読書推進月間には子ども達に本の楽しさを伝えるための「読書まつり」を実施したり、図書室整備の資金が必要という意見からフリーマーケットを開催したりしています。

代表の山上さんからは、「子ども達が、家族と一緒に本に親しむ中で、本から得られる力によって強く生き抜く大人になるように、活動の輪を広げていきたい」とお話しいただきました。



読み聞かせの様子



フリーマーケットの様子

たくさん子どもたちに本の楽しさを！

読み聞かせの会「はまなす文庫」（新ひだか町）

新ひだか町の読み聞かせの会「はまなす文庫」は、新ひだか町三石地区で活動しています。

現在は、平成29年に新設された新ひだか町総合町民センター「はまなす」内のプレイルームで月2回の読み聞かせ会を実施しています。

読み聞かせする本は、ベテランの会員たちが「はまなす」内にある新ひだか町図書館三石分館の蔵書から、子どもたちの興味関心にあわせ、七夕や節分など、その時々季節の行事に関する本などを選書しています。

また、子どもたちとの対話を大切にしながら、お手玉やカルタなどの昔遊びなどを交え、子どもたちの豊かな心の育成を図るためにさまざまな工夫を図りながら、読み聞かせ会を実施しています。

このような長年の取組から、これまで日高管内教育実践表彰などを受賞しています。

御自分のお子さんを読み聞かせ会に連れて来たことをきっかけに活動に参加することになった方や、退職後に活動に参加するようになった方など、30年近くこの「はまなす文庫」で活動している方もいらっしゃいます。

会員の皆さんは、「長年継続して活動することは大変ですが、たくさん子どもたちに本の楽しさを感じてもらうために、これからも活動を続けていきたい」と話しています。



この日は、節分に合わせて『ないたあかおに』の読み聞かせの後、鬼のお面づくりや豆まきを行いました。



団体間のネットワークをつくる

函館絵本の会 銀のふね（函館市）

函館絵本の会 銀のふねは、函館市中央図書館や市内の書店での定期的な読み聞かせの他にネイパル森、函館美術館でも読み聞かせを行うなど、子どもたちの読書活動推進や、大人向けの読書推進に向けた活動を行っています。今回は、平成29年10月26日に実施した「情報交流会と北海道子どもと本のつどい報告会」を紹介します。

この会は、「～全ての子らに本の楽しさを～」をテーマに8月19・20日に網走で開かれた「北海道子どもと本のつどい」の成果を普及したいと考えた参加者の岸本さん（銀のふね）が、講師を務められた函館在住の作家森越智子氏（代表作『生きる 劉連仁の物語』）に講演を依頼し開催することとなったものです。

報告会は、市内の読み聞かせボランティア団体が複数集まり、講師の話を通して読書活動への意識を一層高めるとともに、団体同士の情報交流を行い有意義な時間となりました。参加者からは、作家の声を聞いたことで、その本に込められた思いを知ることができて良かったとの感想が聞かれました。

他の読み聞かせ団体と顔を合わせる機会はあまり多くないことから、銀のふね代表柄澤さんは、このような機会をできるだけ作り、団体間のネットワークを作っていきたいと考えています。



報告会の様子

手を取り合って

当麻町おはなしネットワーク（当麻町）

「当麻町おはなしネットワーク」はもともと当麻町で活動してきた2つの読み聞かせ団体「おはなしポッケの会」（平成12年発足）と「くんくんおはなし会」（平成13年発足）が、当麻町で「おはなし」に取り組んでいるサークルや家庭が協力・連携をして地域での活動を活性化していくことを目的として平成25年に発足しました。

それまでも各々の団体で月1回読み聞かせ会を実施し、多くの方々へ読み聞かせや本の楽しさを伝えてきましたが、ネットワーク発足後は、町内小学校の朝読書時間中での読み聞かせや、11月に開催される「図書館フェスティバル」への協力、町内外のイベントへの参加、講座の実施など、その活動は年々広がっています。

近年は、少子化やインターネット、スマホなどの情報媒体の普及・進歩による子どもの読書離れを心配する声も聞かれますが、こういう時代だからこそ子どもや保護者である大人の方々への読書普及の活動を続ける意義を共有しながら活動しています。

「当麻町おはなしネットワーク」はメンバー7名手を取り合って今後も前進していきます。



読み聞かせの様子



読み聞かせの様子

絵本の持つ力と読み聞かせによる感動を伝える

リーディング倶楽部たんぽぽ（湧別町）

湧別町の「リーディング倶楽部たんぽぽ」は、平成9年に音訳ボランティアとして設立され、平成14年から絵本の読み聞かせ活動を加え、11人のボランティアメンバーが「できることを、できるときに」を合い言葉に、子どもからお年寄りまで幅広い年齢層に向けた読書推進活動に取り組んでいます。

主な活動として、毎週水曜日の朝8時15分から湧別小学校の1年生から3年生の全学級で、絵本の読み聞かせを行っています。また、お年寄りを対象としたふれあいサロンや母親を対象とした育児学級等にも出向き、絵本の紹介や読み聞かせ活動を行っています。

現在では、この学校での読み聞かせに参加していた児童が親となり、子どもへ読み聞かせをするための絵本を選びに図書館へ足を運ぶことが増えています。このような取り組みから平成18年度には、「北海道優良読書グループ北海道表彰」を受賞しています。

これからも読み聞かせを聞いてくれる方々に、絵本の持つ力と読み聞かせによる感動を伝えながら、地域に根差した読書推進活動を続けていきたいと考えています。



学校での読み聞かせの様子

「望ましい生活習慣」の定着に寄与する読み聞かせ活動

厚岸町で乳幼児から高齢者にまで幅広く読み聞かせボランティアの活動を展開している「ちいさな絵本箱」は平成13年に設立されました。現在では、小学生の保護者を含む40代から70代までのメンバー合計14名が運営に携わっています。

ちいさな絵本箱（厚岸町）

町内にある真龍小学校のPTA活動の一環として、母親が子ども達に行った読み聞かせ活動が、サークル発足のきっかけになっています。その後、平成16年に、子育て支援センターに通う若い母親達の中から「本の楽しさを、もっと多くの子ども達に伝えたい」と願う有志が集まり、厚岸小学校にも活動の輪を広げ、平成29年度は太田小学校へも活動を拡大させました。また、小学生の「望ましい生活習慣」の定着に向けた北海道教育委員会の「子ども・地域サポート事業」にも取り組み、「食べること」にテーマをしぼった図書の読み聞かせも行いました。全校児童が参加した小学校から、「翌日、給食を残す児童が目に見えて減った」という嬉しい報告がサークルへ届けられ、大きな手ごたえを感じることができました。

代表の川崎さんは、活動を継続させるためには無理をしないことが大切であり、会員には「くれぐれも自分の生活を大切に、できる人ができる時にできることをすれば良い」と伝えています。できる人が、無理なく、やりたいことに取り組むことができる雰囲気の中で、メンバーが生き生き活動しています。



「子ども・地域サポート事業」の様子